

大根占中学校への想い



錦江町立大根占中学校
校長 吉中 孝

北に桜島、南に開聞岳を望み錦江湾の潮の香りがほのかに漂い、田畑には緑が濃く、さまざまな作物を生み出し、また、各種事業所や庁舎のある、この豊かな大根占の地に六十年の年輪を刻み続けた大根占中学校。社会の変遷、少子化の影響を受け大根占地区の他の中学校との統合のため閉校ということになりました。母校がなくなるといふことはある意味、自分のバックボーンの一部が消えることと同じで哀惜の念を禁ずることができないと思います。

沿革史を読むにつれ、時の経過の中で脈々と受け継がれてきた大きな脈動が、今まさに終止符を打たんとしています。昭和三十年代は、三泊四日で修学旅行をしていました。九州一周、熊本、長崎、福岡です。移動の大変さがわかります。昭和三十年三月十八日に現在の大根占中学校の校章が制定されています。「錦江湾の彼方に遥かに映える薩摩富士の上」に我らの母校が高き理想を求めて聳え立ち、二本の細波が世界の大海原に自主の精神を求めて忍耐強く広がっていく」という意味が込められています。五月八日には開校記念の校内マラソン大会が実施されていた時期もあつたようです。昭和四十六年十二月一日、創立三十周年記念式典実施。昭和五十六年五月二十一日新校舎落成式。記念碑「青雲の志」建立。文化祭が「青雲祭」と名付けられていた時期がありました。昭和五十九年、県緑の環境づくり事業として校庭に貝塚息吹を百二十

五本植樹。昭和六十一年度末に体育館工事完了。昭和六十二年落成式。それからもう二十年が過ぎました。聖火リレーが区内を駆け巡ったこともありました。錦江湾の浄化のために早朝から城ヶ崎海岸の清掃に取り組みました。文化祭の劇はシリアスな中に必ず爆笑シーンがありました。部活動に明け暮れた毎日。額に汗がびっしょり、全力で駆け抜けた体育大会、苦しくてゆがんだ顔でゴールした持久走大会。若人の集う中学校は変わらぬ活力と生気に満ちていました。学校のことになれば自分の仕事など後回しにして奉仕作業に駆けつける保護者。素直で人懐かしい生徒、よく遊びよく学ぶ生徒、大根占中の皆さんの特徴はそんなところがありました。成果は数々の優勝旗や全国表彰等、枚挙に暇がありません。もちろん卒業生は社会の中で大いに活躍されています。

時の経つのは早いもので、それを止めることもできません。本校の数々の思い出は卒業生と保護者、地域の皆様の記憶の中に行き続けることと思います。語りつくすことはできませんが、本校最後の校長として皆様と共に大根占中学校の歴史に関わることができましたことに感謝しますと共に心より誇りに思います。



錦江湾クリーンアップ作戦

錦江町立大根占中学校 生徒会長 竹下 元氣

大根占中学校創立六十二年、いよいよ今年三月、閉校を迎えることとなりました。僕にとってこの大根占中学校はとても大きな存在でした。三年間、生徒会活動、文化祭、体育大会といった様々な行事を通して自分自身大きく成長することができたような気がします。特に生徒会では、書記会計、生徒会長とめつたに体験することのできない貴重な体験をさせてもらい、仲間と協力することの大切さ、意見をまとめることの難しさといったことを改めて感じることができました。また、僕の父も大根占中学校出身で、学生時代に書記会計をしたそうです。父の頃の全校生徒は今の五倍はいたそうですが、生徒会活動はやりがいがあり、とても楽しかったようです。今年度僕たちが行った行事として特に印象に残っているのは九月に大根占中学校として取り組んだ最後の錦江湾クリーンアップ作戦です。百名近い生徒が参加し、午前七時より二時間程度城ヶ崎海岸の清掃を行いました。皆で取り組んだことにより海岸をきれいにしたという実感がより一層深いものとなりました。生徒一人一人が生徒会活動に積極的に取り組み、充実した活動が行えたことを感謝しています。最後に、残りわずかな大根占中生としての学校生活一日一日を大切に過ごさう存分楽しみたいと思います。大根占中学校の名がなくなるのは残念ですがそれ以上に錦江中学校に栄えて欲しいと思います。

閉校式実行委員長 川越 和夫

少子高齢化の時代の真っ只中、児童生徒の減少に伴い錦江町の四つの中学校が平成二十年四月に統合することが決定しました。

私共にとって大根占中学校は、中央に位置しながらも大自然豊かな学び舎でした。昭和二十二年開校当時は木造でしたが、昭和五十六年に現在の鉄筋校舎となり、地域発展の基礎的役割を果たしてまいりました。閉校といいますが一抹の寂しさを感じますが、錦江中学校は大根占中学校校舎を一部改修し利用されることになっています。これまでの大根占中学校の歴史に今後新たな歴史が積み上げていかれることを心強く感じています。大根占中学校の生徒数は最多の折には六百十三名であった時代もありますが、今年度の生徒数は百十五名です。現在までの卒業生数は六千三百八十名であり、町内はもとより県内外において各々の立場でご活躍されています。今後、錦江中学校として、生徒諸君が心身・学力向上に励まれ、新しい歴史作りに努め、飛躍的に前進されることを願ってやみません。最後になりましたが、閉校記念事業実行委員の皆さんをはじめ、校区民の方々のご協力ご理解を今後共よろしくお願いいたします。



▲開校当時の木造校舎